

攻撃(勢)と
防御(勢)の選択

理事長 森 勉

昨年日本で開催されたラグビーの

ワールドカップはラグビーの五つの価値、「品位・情熱・結束・規律・尊重」と、戦いが終われば敵も味方もないというノーサイドの精神、そして日本代表の活躍が相まって国の内外に大きな感動を与えた。スポーツはルールのある戦いであるが、戦場での戦いには国際的な戦争法規はあるものの「勝てば官軍負ければ賊軍」という冷酷な現実があるのみである。戦いにおいて戦勝を獲得するためには明確な目的を確立し、具体的な目標を設定し、常に主動性を保持することが決定的に重要である。攻防の選択はもちろん任務によって決定されるものであるが、受動的な防御より主動性を保持できる攻撃こそが最良の戦術行動である。

攻撃は防御に対して3倍以上の戦力が必要であるということは戦術の基本原則であるが、攻撃における突破正面においては更に圧倒的な戦力を集中しなければ準備された防御を撃破することとは困難である。防御は待ち受けの利益により地形の利用、陣地の構築等各種の準備等が出来るため戦術的には明

らかに有利である。戦略的にはどうであろうか？ わが国を防衛するためには、北海道から九州・沖縄まで全正面に戦力を配置しなければならぬが侵略側は時期と場所を自由に選択でき一正面に戦力を集中できるため主動性を確保できる。

戦力とは有形の火力、機動力、防護力、情報力、兵站力等と無形の部隊の訓練練度、規律・団結・士気等の部隊の精強性、部隊の伝統等の総和である。古代ローマの終身独裁官カエサルは「人は見たいものを見、聞きたいものを聞く」と言ったが、戦力の評価においては有形の戦力を基準として客観的かつ総合的に分析しなければならぬ。無形の戦力を重視し少数精鋭に走れば精神主義に陥りいつか来た道を歩むことになる。

わが国の防衛においては、西欧列強の植民地支配に抵抗し独立を保持するためであったとはいえず、明治維新以降大東亜戦争の敗北までアジアの各地域において多くの犠牲を出した深い反省から政治的に専守防衛という安全保障政策がとられている。このため軍事的には戦略守勢をとらざるを得ず、地政学的には北日本、西日本、南西諸島の三正面に対処しなければならず、主動性を保持することは極めて困難でありその実行においては格段の覚悟と配慮が必要である。